

ヒトオモイ

燈月
雪花

一人思い

もの思う
ただ一人
部屋の片隅で
大通りに立ち尽くして
目を閉じて
ぼんやりと目を開いて

もの思う
もの思う時にもの思う
こつして思うものは何一つ言葉になどならず
ただ沈んで積もり
そうして作り上げられるのが私といういきもの
思うものは何一つ
誰にも伝わらないまま私を形成していくのだと

人の想い

見えない聞こえない触れられない
けれど気になって仕方ないそんなもの

あなたから見た私はどんな形をしている？

少しでもきれいに見えるなら幸せ

一つ思い

馬鹿みたいにそれだけ
それ以外何も見えない
執着し固執し盲目になる
まるで腐り落ちていくようだ

思い続けるそれ以外なくなってしまう

壊死する私の一部がそう叫んだ

人を想い

何をしているかな、とか
何を見ているのかな、とか
何を聞いているのかな、とか

ふと、隣にいる時に
姿が見えない時に想う

何を想っているかな、とか
好きなヒトのことかな、とか
何か悩みごとあるのかな、とか

私のことを想ってくれないかな、とか

一思い

ただ想うままにそれを他人にぶつけるとはどんなものでしょう

それはきつと痛いこと
それはきつと怖いこと
けれど時折思うのです
傷つけても傷ついても構わないから

いつぞ、と

明ける前に眠りましょう
醒める前に酔いましょう
枯れる前に咲きましょう
朽ちる前に往きましょう
消える前に捧げましょう

いっそ、一思いに